

インドネシア ボナさんの研修報告

オイスカ中部日本研修センター

私の名前はボナ・アブラハムと申します。インドネシアからまいりました。年齢は30歳です。既に、結婚しています。

オイスカ・スカブミ研修センター(2001年)に入所する前に、私は、どうがらしの農場で仕事をしていました。それは農業高校を卒業後のことです。(1999年)

2002年～2003年にかけて始めの3ヶ月間、私は福岡県にあるオイスカ西日本研修センターで日本語を研修しました。その後、1年を酪農の勉強の為に、農家に滞在をしながら、研修をしました。



2010年2月から2011年4月まで、中部日本研修センターで2回目の研修を受ける機会を得る事が出来ました。農業指導の科目でした。今回は、始めの農家での委託研修とは違い、特にリーダーシップについて学びました。

私の故郷では、飲料水は井戸水を利用しているので、煮沸しなければなりません。直接、水を蛇口から飲むことはできません。飲料水を購入する場合は、会社からの容器で買っています。オイスカ・スカブミ研修センターの宿舎では、井戸水を一旦集め、それをポンプアップしています。特に乾季では水が不足するため、他の場所から運んだり、購入したりしています。

私は帰国したら、家族や友人、周囲の人たちに、日本についての話をしたいと思っています。インフラ(道路や公共施設など)、順番を守り列に並ぶ文化、交通規則、進んだ技術、仕事のマナーなどについてです。世界最先端の科学技術で知られている日本ですが、それだけではありません。水道水を煮沸することなく、直接飲めるということは、素晴らしい事です。また、日本人は昔の文化を、大切に守って継承している事などです。

日本の文化は、親から子供へと伝えられていきます。日本では親の指導により、自立した生活について教えられています。高い向上意識と教育は最も重要なことです。

私が、日本で滞在中に学んだ事は、仕事への姿勢、生活態度など一般の人々の日常生活のあり方です。もちろん、日本語、作物の栽培技術、農業機械についても学びました。

インドネシアの人々は、ごみ処理に関してまだ意識が低いです。例えば、濡れたゴミと乾いたゴミを混ぜたり、道端、山、川などの環境を平気で汚したりしています。この事も、家族や周囲の人々に伝えることが出来ると思います。なぜならば、中部日本研修センターに滞在中は、掃除が最も重要でした。それから、日本で行っている自然栽培の農業技術は、インドネシアでも応用したいと思っています。特に、農民たちのためです。

オイスカ中部日本研修センターの研修では、多くの前向きな



事を学ぶことが出来ました。規律、礼儀、勤労の精神、仕事のマナー、自立、日本文化、生活態度などです。農業の知識については、特に自然栽培(野菜、果樹、水稲など)についてです。その他に、農業者としての考え方や農協などの組織作りについても学びました。

政府の農業分野に対する支援は、明治用水などの灌漑用水に見ることができました。水が、無くては農業は始まりません。

日本の人々は、健康への志向が高い為に、生活の質や自然食品に対する意識が高いです。その事により、農民たちが健康に良い作物を育てる意欲を刺激しています。

私の国の産業の発展については、工場や会社があることによって、労働力を吸収する事が出来ます。現在の若者たちは、農業よりも会社や工場で働くことを選択する傾向があります。それが、私の国の問題になっています。工場や会社を建設することにより、農地がますます狭くなりつつあります。この問題は今の日本でも同様だと思われまます。

お風呂について。一日の仕事が終わった後に、他の人と一緒に入るお風呂は、私の国ではほとんど、あるいは全くありません。最初は恥ずかしかったですが、だんだん慣れてきました。なぜなら、違う文化の中にいるので、慣れる努力をしたからです。

また、コミュニケーションツールとしての日本語は難しいですが、毎日使ように努力しました。「いらっしゃい」「どうぞよろしくおねがいします」「ごめんなさい」は、一番好きな日本語です。

オイスカ中部日本研修センターでは、英語を共通語として使用していました。自分の国ではあまり使っていなかったので、日本滞在中は大変でした。日本での研修は本当に嬉しく、素晴らしいものでした。

休みの日は、インターネットや電話で家族や友人との会話を楽しんだり、読書をしたり、買い物に出かけました。

次の研修生には、農業の勉強をはじめ発展に役立つ様々な日本文化を研修中に身につけて欲しいと願っています。研修期間は、最低2年に出来たら良いと思います。最初の一年目が、基礎研修です。まず、研修センター初歩的な知識や活動のプログラムを学びます。2年目は専門知識を学び、自立や指導力や精神力を学ぶことにより、自国に帰国後、学んだ事をすぐに応用できます。

オイスカ中部日本研修センターでの研修は、オイスカ・会員さんや、様々な方々の支援なしには行えなかったと思います。オイスカ会員メンバーや会社や他の組織の方々々に期待するのは、オイスカのプログラムに、今後も継続して参加し、支援して頂きたいという事です。

現在、私が一番考えているのは、日本や現地のオイスカで研修を受けた者が、どうすれば精神力、能力、規律、指導力を発揮し成果を上げるかです。今後、周囲の人々やインドネシアの農民社会の考え方を考え、地域の人々と一緒に前進で出来るようになると思います。

オイスカ・メンバーや会社、団体、地域社会、政府の皆様方、研修センターで、2回目の研修を受けるための支援とご理解を賜りまして、誠にありがとうございました。

2011年2月26日土曜日
Bona Abraham(ボナ)

